

# 2020 年度 教員相互の授業参観 報告書

## 目次

|                         |            |       |       |
|-------------------------|------------|-------|-------|
| 国際英語学科                  | 国際英語専攻     | ..... | p. 1  |
| 人文学科                    | 日本文学専攻     | ..... | p. 5  |
|                         | 歴史文化専攻     | ..... | p. 6  |
| 国際社会学科                  | 国際関係専攻     | ..... | p. 7  |
|                         | 経済学専攻      | ..... | p. 9  |
|                         | 社会学専攻      | ..... | p. 11 |
|                         | コミュニティ構想専攻 | ..... | p. 12 |
| 心理・コミュニケーション学科          | 心理学専攻      | ..... | p. 13 |
| 人間科学科                   | 言語科学専攻     | ..... | p. 16 |
| 数理科学科                   | 数学専攻       | ..... | p. 18 |
|                         | 情報理学専攻     | ..... | p. 19 |
| 総合教養科目運営委員会             |            | ..... | p. 21 |
| キリスト教学科目運営委員会           |            | ..... | p. 23 |
| 第一外国語運営委員会              |            | ..... | p. 24 |
| 第二外国語運営委員会              |            | ..... | p. 26 |
| 第二外国語運営委員会              |            | ..... | p. 28 |
| 日本語科目運営委員会              |            | ..... | p. 30 |
| 情報処理教育運営委員会             |            | ..... | p. 33 |
| 教職課程運営委員会               |            | ..... | p. 35 |
| 学芸員課程運営委員会              |            | ..... | p. 36 |
| キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会 |            | ..... | p. 39 |

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021年 2月 15日

国際英語 学科・専攻

科目・専攻・委員会名 \_\_\_\_\_

主任・委員長等責任者氏名 本合 陽

|         |   |           |                                     |
|---------|---|-----------|-------------------------------------|
| 授 業 科 目 | 通訳学特論   | 授 業 担 当 者 | 鶴田知佳子                               |
| 授業形態    | 授業は ZOOM で行う。資料はあらかじめ WebClass に掲載し、授業中にも画面共有する。副教材として動画教材も用いる。 |           |                                     |
| 授業参観実施日 | 11 月 23 日 ( 月 ) 2 時限  | 参 観 者 数   | <u>10</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>3</u> 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 通訳者による二言語間の橋渡しの仕方を知ることにより、言語および文化の比較研究上の知見を得るとともに、英語教育への応用方法を探る。

② 【抜粋】

■ いくつもの刺激を受けた授業でした。特に興味深く、自らも取り入れたいと思った4点について記します。

1. 冒頭部分「通訳者としての一週間」

「通訳者としての一週間」を振り返って紹介するのは、時事性のある話題を学生に提供する点でも、興味を引く要素としても、とても魅力的だと思いました。

2. 優秀作品の発表 (6名)

異文化コミュニケーションのスキットを作るのを課題とし、翌週良いものを発表しているやり方は、履修学生に対して課題に真剣に取り組む動機とピアラーニングのとても良い機会を提供していると思いました。筆者も課題コメントのなかから良いものを翌週紹介していますが、個人名は出さないでいました。学生たちが望むのであれば、名前を明示するのも刺激として良いように思いました。

3. 全体にわたっての担当者の姿勢

終始、自身の豊富な知識と経験を織り交ぜながら話していくところが印象的でした。科目の性質上、机上の学問にせず、学生たちに具体的な例からテーマや考え方に興味を持たせるという点で良いと思いました。今回取り上げていたハリスのようなアップトゥデートな実例や、本題だった通訳者として必要な心得と知識 (Professionalism や経済面) に関して紹介されたポイントも、具体的な例を織り交ぜながら話す姿勢が一貫していて、同時通訳現役の鶴田先生ならではの強みを存分に活かしておられると思いました。さらに、こうした事例をどのように通訳翻訳学の分析方法や理論と結びつけていくのだろうと思いながら聴講していたところ、参考書の該当箇所を巧みに用い、その引用部分に言及しながら、事例を通して考えたことを抽象化する道筋を紹介しておられたように思います。

4. 多岐にわたるテーマ

政治～経済～外交～文化 (ノーベル賞) に至るまで、実に多岐にわたるテーマが織り込まれていて驚きました。通訳の仕事の中で実際に経験する実態を反映しているのかもしれませんが、それぞれの知識が正確で先生の記憶力と造詣の深さにも強い感銘を受けました。

■ 多岐にわたる分野についての通訳事情について興味深い溢れた魅力ある講義であった。話し方もクリアでわかりやすい。学生が提出した文例も素晴らしかった。ただ、この分野を学問として学んだことがないので、素人としての印象になるが、話題がどんどん変化していくので何についての講義であるのかわかりにくい部分があると感じた。世界の経済や政治の情報伝達の中に身を置いて通訳をする教員にとっては当たり前であることが、学生にとってはまだまだ実感を持ちにくいと思われるので、その「橋渡し部分」を単なる余談風の話ではなく、そこに専門性やコンテクストを持たせても良いと思う。例えば、最低限経済学の知識が必要というのであれば、どの用語や概念を理解しているとどのように通訳する内容に深みが生まれるかといった実例を双方向的に検証しても良いのではないだろうか？

- ・まず最新の1週間の通訳者としての実務仕事内容を開示されたスタートから、通訳者としてのキャリアが学習中の学生への明確な刺激と鼓舞に繋がると感じました。
- ・カマラ・ハリス氏のスピーチというタイムリーな教材の選択が、通訳が時事問題に直結している使命を学生に興味深く紹介していて、話題性もさることながらとても的を射ていると感心いたしました。
- ・上記の内容から、引用箇所がいかにもアメリカ、その文化的、伝統的な言及であることを丁寧に指摘することで、通訳にとって「文化の比較研究上の知見」という観点が不可欠であるという注意点を分かりやすく示されていました。
- ・さらに、しっかりと、それには常時、予習と復習が習慣化されてこそ可能である現実や、通訳＝理解と表現であるという厳しさも提示されていて、この授業の技巧の高さを感じました。でも、鶴田先生はチャタリングに終始笑顔で淀みない綺麗な日本語と英語で、クラスは明るく、換気100%！のトーンが印象的でした。
- ・異文化スキットは学生たちの課題を公開し、一緒に内容を見ていきながら教師のコメントを通して、通訳が二言語間の橋渡し＝二文化である特性を学ぶ側に寄り添って、理解しやすい実例紹介だと思いました。
- ・通訳がやはり現場のキャリアとして、経済面の知識が必要である指針を学生はよく納得できたと感じました。経済学をおろそかにできないが、決してこれだけでは通用しない、通訳は convey cultural meaning とあげられたように、言語と文化のシンクロであり言葉のみで伝達するのではない、実践的視座を当に「英語教育への応用方法」に活用されておられると感動しました。しかし常にバランスを学生に開示しておられて、英語が「国際的共通語としての支配的地位」にある現代にあってもグローバルな地球規模の目線から、どうして「多言語主義」も他方しっかり存在している見地は、若い学生たちに有効な「英語教育への応用方法」となり得るのではと思いました。
- ・バランスといえば、広義において、通訳が知識だけではなく倫理が（人間性を含めるということでしょうか）必要であることも優しい素敵なお声で力強くおっしゃっていたのが印象的でした。通訳の質の高さにまで意識を学ばせるプロフェッショナルからのアドバイスならではと恐れ入りました。
- ・最近のお仕事例から、ノーベル文学賞、ルイーズ・グリュックの動画の件は、もっとお話しをお伺いしたかったところでした。
- ・「翻訳」という分野にも最後少し触れてくださったところは興味深く思いました。翻訳者は過去、現在、未来を超える時空の仕事である＝素晴らしい仕事だと思いませんか。というメッセージに、わたしも一学生になったような、こういう仕事の肯定は実に励まされました。

■ 通訳の実務の現場に長年関わられた先生ならではの、エピソードや実務上のアドバイス等を織り交ぜて学生の関心を引きつつ、毎回通訳の実践練習となる課題を地道に継続されている様子も垣間見られる授業で、参考になりました。

現代の要人の発言をリアルタイムで正確に通訳、理解する上で、アメリカの独立宣言や憲法等の文言や、パスカル等の古典に親しみ、知識と教養を身につけることも肝要であるというご示唆も、勉強になるものでした。

■ 通訳学特論において、1) 通訳者による二言語間の橋渡しの仕方、2) 言語および文化の比較研究上の知見、3) 英語教育への応用方法について、授業でどのような工夫と実践が行われているのかを参考に致

したく、申し込みをいたしました。結果、今回の参観は、おそらく参観教員のための講演会、という位置づけだったように思われましたので、その観点からは、話題が広範囲に及び豊富なネタで話上手な先生が謙遜しておっしゃられていたように「漫談」としては、非常に楽しい講演だった気が致します。したがって、参観を対象とした理由の観点からは、限定的なコメントになってしまいました。あしからずご了承ください。

### 1) 通訳者による二言語間の橋渡しの仕方

ご自身が通訳者であることからご自身が見聞、経験した生のお話が多く時間を割いてご紹介されていましてのがとても印象的です。橋渡しの点については、①「日本人の変な英語」(たとえば「共感を得られるようにしたい」「全集中の呼吸の答弁」)など通訳を行う上での苦労話から「日本の英語を考える会」の立ち上げに至った現在の御活動についてご紹介、②そのほか、通訳者は、安定した通訳ができるために、アスリートのように毎日英語を勉強する必要があること、など通訳者の苦労話などを伺い知ることができました。

### 2) 言語および文化の比較研究上の知見

文化の架け橋になる通訳者は **to convey cultural meaning** が必要とお話。異文化スキットから言語以外にもジェスチャー考察の必要性が紹介され、これが言語、文化の比較研究であるとのご説明でした。その後、プロフェッショナルな通訳者して必要なことは、服装が適切であること、紙と鉛筆を必携すること、仕事上知り得た(機密)情報は口外しないこと、がご自身の生身の経験から紹介されておりましたが、研究上の知見にも言及してほしかったです。またプロフェッショナリズムには経済知識など英語以外のプラスαが必要ということで、世の中の経済の仕組みについて(例:競売理論、機会費用と効用)を説明してくださいました。おそらくこれらのお話は参観した教員向けだったと思われました。

### 3) 英語教育への応用方法

この観点につきましては、ほぼ捨象されていたので「通訳学特論」のシラバスを再度確認させていただきました。シラバスの到達目標には「通訳という行為の特質を理解する、通訳者具体的にどのような場面で活動するかを理解する、通訳者という職業においてどのようなスキルが必要かを学ぶ」とありまして、この日の授業1回で、これらを網羅する話が詰め込まれていたのに驚きましたが、できれば普段の授業でどんなことを学生が学び、どんな英語運用能力の向上につながるスキルを段階的に身につけているのか、体系的に可視化できる授業展開の参観を期待しておりました。また、学習者に与える課題について、次回の宿題は、**Bob Dylan** の歌の歌詞から変な訳を見つけ直すというものですが、今回の経済知識や通訳者のプロフェッショナリズムの話とどうつながりがあるのか、「変な訳」を見つけることが、どんな英語運用能力を育てるのか、学習者側の視点が1回の授業からはわかりませんでした。

■ まさにプロの実践者ならではの、豊富な経験や的確な知見に裏打ちされた刺激的な授業だったと思います。こうした授業に触発されて、学生は毎回の課題をこなすだけでなく、日々の外国語学習にさらに積極的に取り組むようになっていたり、言語間や文化間の様々な問題について自分なりに考えを深めたりするのだと思います。

■ ・最近の通訳の仕事の話から入るのは導入として刺激的。

- ・毎回課題を出し、優秀なものを添削しつつ紹介することは、実践的に学べるし、動機付けにもなるので極めて有効である。その手間を惜しんでおられないことに敬服する。
- ・授業がいくつかのパートに分かれていて、受講生は毎回のことなので了解していると思われるが、授業全体の構成が少々、分かりにくかった。
- ・**ZOOM** による授業という特殊な形態であり、また、講義すべき内容が多岐にわたって時間の余裕がないという事情もあると思われるが、授業内でのやりとり、つまり、学生同士のディスカッション、あるいは、少なくとも先生と学生との間の質疑応答はあってもよかったかもしれない。

③ 最近の仕事の紹介、課題の優秀作品発表とコメントを導入に置き、その後、本日のトピックについて講義されました。

導入の中で、カマラ・ハリスの話を通訳する際に必要な知識など、さすがにプロフェッショナルとして活躍されている先生であるからこそ最新の情報を紹介されていて、とても刺激的でした。またそれに続けて、先週の課題に対するフィードバックも丁寧で良かったと思います。テーマに沿ったスキット作成とその解説を学生に求める課題自体も良いと思いますし、いくつか良いものを紹介し、それに対して優れた面と注意すべき点などの指摘も教育的で良かったと思います。

本日のトピック「経済面についての知識 プロフェッショナリズム」については、二つの関係をもっと説明されても良かったように思います。「プロフェッショナリズム」を第8回に置くことの説明や、具体例として持ち出された「機会費用」と「効用」を、この回で触れることの位置付けがあると良いかなと思いました。

「通訳者による二言語間の橋渡しの仕方を知ることにより、言語および文化の比較研究上の知見を得るとともに、英語教育への応用方法を探る」というテーマとの関連ですが、通訳者として二言語間の橋渡しを考える際、言葉を置き換えるときに文化的な背景を考慮に入れる大切さを具体例で説明されている点はとても良かったです。特に大統領候補の演説に現れる言葉が引用であると思われる場合、引用であることを示す訳をする必要があるというところなどは、学生への学びの意識を高めてくれますし、専攻の壁を取り払っている国際英語学科ならではの学びに繋がります。訳語を歴史的な文脈に置く必要があることを、訳出する言葉の調子によって表現するために必要な文化的背景を身につけることの重要性を指摘してくださいました。その意味で、英語教育においても背景となる知識を持っていることの重要性が浮かび上がり、学生にとって有益な情報をたくさん提供されていると思いました。

本日は参観授業ということもあったかと思いますが、情報量も多いので、時間配分が難しいとは思いますが、学生のリアクションなどを授業内で確認するアクティビティなどが少しあっても良いかなと思いました。

- ④ 通訳は実践あってこそそのスキルであるため、担当者としては最近引き受けた通訳業務から学んだことを「通訳の現場から」として毎週、受講生に伝えるようにしている。また、受講生が実践をするのと同じにはならないが、毎回課題を出して「通じるような訳出をするとはどういうことか」体験出来るようにしている。受講生が多いが、全員のやる気を喚起するために、毎週、優秀作品は全員の前で発表するなどして、毎週の課題提出意欲がわくように工夫をしている。テーマは事前に設定しているが、時事問題（たとえばノーベル経済学賞の発表、アメリカ大統領選挙）との関係で、興味をもって受講できるように考えている。

2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2020 年 12 月 08 日

科目・専攻・委員会名 日本文学・専攻

主任・委員長等責任者氏名 山本真吾

|  |                      |           |                      |
|--|----------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目  | 古典籍調査                | 授 業 担 当 者 | 光延真哉                 |
| 授業形態   | Zoom によるオンライン授業      |           |                      |
| 授業参観実施日  | 11 月 27 日 ( 金 ) 4 時限 | 参 観 者 数   | 4 名<br>(内、非常勤講師 1 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>①日本文学専攻として 18 課程において新規に設置した科目であり、古典籍の調査を踏まえ、双方向的な授業を実践されている。こういった授業をオンラインで実現する方法は多くの教員にとって資するところとなると考えたため。</p> <p>②授業の最初に担当者から指示があり、その後、zoom のブレイクアウトセッションを使い、各グループに分かれてそれぞれネット上で公開されている古典籍を確認し合い、意見を出し合って、どの古典籍を調査して発表するかを決めていた。ブレイクアウトセッションで少人数になることで、それぞれ親密に意見を出し合い、討議できていたのが良かった。とかく現代との隔絶感を抱きやすい古典教材について、受講生が身近な問題として捉えられるよう豊富な話材が用意されていた。現代の身近な文化現象の例とつなげることで親しみを抱くように努めていた担当者の工夫が光っていたように思う。</p> <p>③それぞれにパソコンを駆使して、ネット上で保存されている古典籍をさまざまに確認できるのが良かった。近年は所蔵する貴重書の写真を公開しているところが増えた、ということを知ることによって、今後の自学自習にも役立つものと思われる。ネット上の画像は、拡大などが簡単なのがありがたい。ただ一方で、大きさや手触りなどは、やはりイメージしづらかった。一度だけでも、本学所蔵の版本などを触れる機会があれば良いと思った。</p> <p>④遠隔での授業であったが、ブレイクアウトセッションを活用することでグループワークを取り入れることができた。教員は各セッションの様子を確認することができるが、ビデオオフにしている学生に対してオンにするように求めることがしにくいという事情もあり、グループメンバーそれぞれのワークへの参加度合いを図ることが大変難しかった。そうした点においては、やはり対面形式に勝るものはないと思われる。</p> |                      |           |                      |

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021年 11月 日  
歴史文化 学科・専攻  
 科目・専攻・委員会名 \_\_\_\_\_  
 主任・委員長等責任者氏名 樋脇博敏

|   |                      |           |                                    |
|---|----------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目   | 西洋史概論Ⅱ               | 授 業 担 当 者 | 柳原 伸洋                              |
| 授 業 形 態   | 遠隔授業（オンライン、オンデマンド併用） |           |                                    |
| 授業参観実施日   | 11月 25日（水） 1時限       | 参 観 者 数   | <u>2</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>0</u> 名) |
| <p>（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）</p> <p>①オンラインとオンデマンドを併用した授業運営に、さまざまな工夫を凝らしているようなので、その技術的側面はもちろんのこと、そうした授業方法を採用したねらいと効果についても学ぶ。</p> <p>②③西洋史概論Ⅰ・Ⅱは、近世から現代までのヨーロッパ・アメリカ史を概説する科目である。当該科目は、アジア史概論Ⅰ・Ⅱ、日本史概論Ⅰ・Ⅱと並んで、歴史文化専攻で専門的に学んでいく際の出発点に位置づけられる基幹科目の一つで、1年次での履修を強く勧めている。</p> <p>上記3つの概論科目はいずれも必修科目なので、履修者は毎年100名前後と多い。教員が一方向的に講述しがちとなる大人数の講義科目において、双方向型の授業運営をいかに構築していくか、また、どのような教室外学習を課し、どのようにチェックしてフィードバックしていくか等の課題がある。さらには、上記の積年の課題を、遠隔授業という不慣れな授業形態においてどうクリアしていけばよいのかという新しい課題もある。</p> <p>当該科目においてとりわけ指を折るべき優れた取組は、Zoomによる遠隔講義でありながら、学生有志から成る「共演者」数名を配して、教員と「共演者」が対話しつつ講義を進めていく、という画期的かつ挑戦的な双方向型の授業方法である。また、GoogleClassroom等を駆使して、教室外学習や学生へのフィードバックへの配慮と工夫をこらしている点も学ぶべきところ大であった。専攻会議等を通じて、これらの事例を紹介し、今後の授業改善に役立てていきたい。</p> <p>④完全オンラインでありながらも、対面講義で存在していた独特の学びの緊張感のようなものを意識して講義コンセプトを練った。また、オンライン「だからこそ」という点は、講義共演者の存在であり、彼女たちを通じて「概論」というどこまでの基礎知識が共有されているのかが分かりにくい講義に関して、講義者が学生の実態を知ることができたのではないかと思う。</p> |                      |           |                                    |

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2020年 11月 20日

国際社会学科国際関係専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 黒沢文貴

|  |                                       |       |                   |
|--|---------------------------------------|-------|-------------------|
| 授業科目   | 国際関係法B                                | 授業担当者 | 根本和幸              |
| 授業形態   | オンライン zoom レジューメは GoogleClassroom で配布 |       |                   |
| 授業参観実施日  | 11月 17日(火) 2時限                        | 参観者数  | 6名<br>(内、非常勤講師 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>①<br/>本科目は本専攻の国際法関係の中心科目である。国際法の内容、実際に起きた事件や判決内容を踏まえて、現代の国際社会が抱える諸問題を法的に分析し、認識できることを目的としており、具体的な事例から難解な法的問題を読み解く作業は、従来から受講生の高い評価を得ている所である。そのためその授業手法は他教員にとっても大いに参考になりうると判断したので選定した。</p> <p>②<br/>1. 「みなさんのお父さん・お母さんが海辺でデートしていたときに見ていた海と、現在みなさんが見る海は違うんです」など、びっくりするような話を挿入して、領有権問題を身近な問題として学生が考える工夫をしている。<br/>2. カラーの地図、実際の南シナ海の写真を見せながら検討するなど、視覚的に理解できる工夫がなされている。<br/>3. 国際海洋法の講義の検討事例として、南シナ海領有権問題と、尖閣諸島沖の領海侵入問題というホットな事例を取りあげており、学生の「つかみ」は万全。最初にこの2つの事例を簡単に紹介しておき、次に、この2つの事例を検討するのに必要な海洋法の起源についての解説に入り、最後に2つの事例にもどったところで、海洋法に基づいて2つの事例の解説を教員が行った。単に「答え」を学生に与えるのではなく、学生が自身で領有権問題を考えられるような構成になっている。<br/>4. 授業中に、学生の意見聴取のために Zoom の投票機能を利用するなど、学生の授業への参加が促される仕組みになっている。</p> <p>③<br/>・遠隔授業ではなかなか学生の関心を集めづらいが、Zoom ならではの機能（投票など）をうまく用いていて、非常に参考になった。<br/>・授業の冒頭に、学生の関心を集めやすい内容のクイズを出して、その回答を授業後におこなうというスタイルはぜひ見習いたい。<br/>・学生が退屈しないように、写真や画像を駆使したり、適宜、関連ある雑談を交えておられ、充実した授業となっていた。</p> |                                       |       |                   |



④

この度は、授業参観の機会をありがとうございます。

今回は Zoom を利用した遠隔での実施でしたが、Zoom への接続トラブルがあり 5 分程度開始が遅れてしまいました。この点は、以後、気を付けて実施して参ります。講義自体はいつも通りに行いましたが、履修者からの質問がなかった点とビデオオンで参加する方がいなかった点がいつもと異なっていました。授業参観ということで遠慮したのかもしれませんが、今回の参観に参加してくださった先生方からのご意見を頂戴して、今後の授業改善を行いたいと考えております。ありがとうございました。

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2020年 12月 16日

科目・専攻・委員会名 国際社会学科 経済学専攻

主任・委員長等責任者氏名 竹内 健蔵

|         |                                       |       |                    |
|---------|---------------------------------------|-------|--------------------|
| 授業科目    | 現代経済論                                 | 授業担当者 | 栗田 啓子              |
| 授業形態    | ZOOMによるリアルタイム配信（時間の合わない参観者には録画を視聴の予定） |       |                    |
| 授業参観実施日 | 12月 2日（水） 4時限                         | 参観者数  | 4名<br>（内、非常勤講師 1名） |

（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）

- ① これまでに歴史と関連づけられた授業を参観することはなかったために、その授業の展開に関心を持たれること。また、担当者は今年度で最後の授業担当となることから、これが参観できる最後の機会となるため。
- ② 1回の授業を視聴したのみであるが、内容が非常に豊富であるという印象で、準備が大変であろうと感じられた
- 講義形式も、配布資料に加え、説明用のパワーポイントを用意し、写真や図面など視覚に訴える内容を盛り込んでおり、受講生の関心を引く工夫をされていることが伝わる
- 資料中に他の回の資料を参照すべきといった指示もあり、受講生としては異なる回の授業とのつながりも意識でき、理解が立体的になるように感じられる
- 内容的には、主としてフランスにおける住宅問題を扱うものであるが、冒頭に、コロナ危機と住宅、少子化など現在の日本の直面する問題が提起されていることから、受講生は現在の日本への示唆をくみとることが促され、考える材料を提供する授業でもある。
- フランスの歴史的な住宅問題という、受講生からするとあまり馴染みのない問題であるにも関わらず、冒頭で現代日本において誰も関心をもつような住宅問題（低所得者向け集合住宅の供給、少子化、住宅ローン、など）の話をされ、受講生の関心を引きつける工夫をされていた。このことによって、当時のフランスと現代日本の間で共通する現象や課題を理解し、今後の対策を考察しやすくなり、受講生にとっては良い思考のトレーニングの場になっていたと思われる。
- パワーポイントを主体とした講義であったが、スライドに多くの工夫が見られた。例えば、1枚のスライドにおける文字数や情報量は適切で、話すスピードも適切ゆえ、内容を追っていきやすかった（私自身が早口なので、反省にもなった）。また、写真や図面なども多用されており、視覚効果によって受講生の理解を深める工夫がなされていた。
- 講義をストーリー仕立てで進めていく上で、文献の引用を多くされていた。このことによって、説明に重みが増すのはもちろん、文献や二次情報の引用の仕方や一次情報の効果的な記述方法など、特に受講生が事例研究をする上でも参考になると思われた。
- このように、研究や調査のあり方への示唆にも満ちていて、受講生の卒業研究に向けて参考になるような講義でもあった。
- 大戦後の英国の住宅供給政策や途上国のスラム改善に関心を持っているため、今回の講義を大変興味深く拝聴した。住居の設計や都市計画というものが、いかに人の生き方についての思想を反映するものであるか改めて認識した。講義は、お話のテンポが適切で、説明も明快であり、写真、建物の図面、内容のポイントが配置された美しいスライドが理解を助けてくれた。講義の方法に関しても学ぶとこ

る大であった。

- ③ 専攻主任は講義当日に入試委員会が連続して入っているために直接動画を視聴することができなかった。幸い、授業担当者がパワーポイント資料を提供してくれているので、それを基に述べる。写真や資料が適宜当てはめられており、授業に集中できると思われる。特に人名が出てくる場合、その人の容貌が気になる場所であるが、そうした人物写真を見ることができるのは授業に親しみをもつことができるための重要な武器であることがわかる。文字の量も適切であるために、おそらく授業担当者の解説と適切なバランスを取っているのではないかと考えられる。こうした分野の授業は経済学専攻ではこれまで参観したことがなかったため、新しい視点を提供してくれるものとして有意義であった。
- ④ 「現代経済論」という自由度の高い科目なので、自分の最近の研究を基礎とした授業を展開することにした。今まで担当してきた「経済学史」や「経済史」では学問の基礎的な知識をしっかりと学生に伝えることを主眼としてきたので、異なったタイプの講義の評価を受けたいと考え、授業参観をお願いした。現在進行形の研究成果を学生に開示することによって、「研究する」ということの意味を学生に伝えられれば嬉しいと考えている。

Zoomでの授業なので、学生たちの反応を得ることができない点がとてももどかしいが、画像を多く示しながら、具体的なイメージを掴むことができるように努めている。その点をどのように評価されたのかが一番伺いたいことである。

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021年 1月 18日

科目・専攻・委員会名

国際社会学科社会学専攻

主任・委員長等責任者氏名

中村 真人

|         |   |           |                    |
|---------|---|-----------|--------------------|
| 授 業 科 目 | 社会調査実習Ⅱ   | 授 業 担 当 者 | 流王孝義               |
| 授 業 形 態 | 学外における社会調査の実施とその成果発表。遠隔会議システムを始めとした ICT（情報処理・通信技術）の活用による。 |           |                    |
| 授業参観実施日 | 12月18日（金）2時限  | 参 観 者 数   | 5名<br>(内、非常勤講師 0名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 社会調査実習は社会学専攻学生全員が履修する社会学の中核的な科目の一つである。今年度、感染防止対策によって学生と教員の行動が大きく制限されるなかで、当科目の遠隔授業実施は、当専攻共通の課題であった。

② 参観者の意見

集約された意見は次の通りである。

・どのグループの調査内容も時宜を得た興味深いもので、わかりやすく整理されていて発表の雰囲気もよく、実習指導のよい参考になりました。

・グループ発表のオーガナイズの仕方についても、オンラインでの授業運営上の工夫という点で大変勉強になりました。

・今回の授業参観は Zoom ミーティングにてリモートで行われました。内容は、社会調査実習の成果発表でした。受講生が3つの班に分かれて、それぞれが行ったインタビュー調査について報告を行いました。

・特に参考になったのは、報告内容の組み立て方です。仮説を立て、それをインタビューの結果から検証し、考察を加えるという形式になっていて、よくオーガナイズされていたと思います。

・また、グループの中で、複数のメンバーにどのように作業を公平に分担させるかという点については、報告のサブテーマごとに担当者が割り当てられていて、そういうやり方があることを知ることができたのは有意義でした。

・各班の報告内容はどれもコロナ禍の時宜に即したもので、たいへん興味深く拝聴しました。特に最後の班は、野球選手、お笑い芸人、俳優、バンドマンなど、通常ではアクセスしづらい対象者にインタビューをしていて、面白く感じました。

・リモート授業という環境下で学生は、互いの顔が見えないせいもあり、発言を促してもなかなか反応してくれませんでした。流王先生は、学生からの発言がない場合には教員から質問を発して、そこから受講生に助言を与えるという流れで指導をされていて、リモート授業の運営という点で考えさせられるものがありました。

③ 社会学専攻主任の意見

社会調査実習という授業の課題設定・進行・取りまとめについて、教員間で課題を共有し、社会学教育の質的向上につき検討できた。特に今年度は、感染防止対策が社会的課題とされ行動が大きく制限されるなかで、遠隔会議システムを始めとする ICT 技術と設備を活用した上で、十分な教育効果を挙げるための工夫につき、教員間で研鑽することができた。授業提供者による努力から、各参加者は貴重な体験を学びあい、交流した。

以上、専攻のなかで特に重要な科目につき教員間で課題を共有し、また与えられた社会的制限のなかで共に努力することを通じて、教育の質的向上に資することができたことは大変有意義であった。

④ 担当者の意見

今年度の3年次演習は遠隔での運営であったが、授業参観を通じて、遠隔授業でのゼミ運営のやり方を共有することができた。

加えて、学生間のその場でのスムーズなやり取りを要する質疑応答の進め方に課題を発見できたので、

今後の授業において工夫すべき点が明確化できた。

## 2020 年度 教員相互の授業参観報告書

|              |                  |
|--------------|------------------|
| 提出日          | 2021 年 11 月 15 日 |
|              | コミュニティ構想 学科・専攻   |
| 科目・専攻・委員会名   |                  |
| 主任・委員長等責任者氏名 | 伊奈 正人            |

|  |                   |           |                                     |
|--|-------------------|-----------|-------------------------------------|
| 授 業 科 目  | コミュニティ拠点実習        | 授 業 担 当 者 | 矢ヶ崎紀子、桑子敏雄、マリ・クリスティーン他              |
| 授 業 形 態  | オンデマンドでの動画配信。     |           |                                     |
| 授業参観実施日  | 2020 年 11 月 16 日～ | 参 観 者 数   | <u>10</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>0</u> 名) |
| (①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)  |                   |           |                                     |
| ① コミュニティ構想専攻の実践的教育の核となる科目の成果報告であるから。特徴ある科目教育の成果を学内で共有するため。同科目については、コミュニティ拠点実習の成果報告会を行っている(2020年10月14日(水)に行った)。       |                   |           |                                     |
| ② コロナ感染症対策をした上で、多くの学生が地方での実習を終えた。これを通して、リスク管理の問題を学習した。その後も、コロナ緊急事態の中で、工夫を凝らして実習を行った。ICTの活用などにより、リスクを機会に変えた貴重な経験となった。 |                   |           |                                     |
| ③ ネットを利用したインタビュー、アンケート、ツアーなどのノウハウがそれぞれの教員から紹介された。それぞれのクラスで実習を実施し、報告書をまとめることができたことはよかった。実習動画の撮影など、専攻の成果を残せたことはよかった。   |                   |           |                                     |
| ④ コロナという問題と直面し、危機管理上の問題で苦労もあったが、おおむね的確に対処できたと考える。それを機会として、実習地との交流が深まった例もあった。   |                   |           |                                     |

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2020年 12月 7日

心理学専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名

田中 章浩

|         |                                    |           |                     |
|---------|------------------------------------|-----------|---------------------|
| 授 業 科 目 | 感情・人格心理学                           | 授 業 担 当 者 | 小塩 真司 先生            |
| 授 業 形 態 | オンデマンド講義（動画視聴→小テスト解答・疑問提出→フィードバック） |           |                     |
| 授業参観実施日 | 11月 30日（月） 1時限                     | 参 観 者 数   | 13名<br>（内、非常勤講師 5名） |

（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）

① 授業の選定理由

オンデマンド授業を工夫して運営されている教員の進め方を見学し、他の教員の授業運営に生かすため。

② 参観者の意見

1. 感想

【オンデマンド講義動画】

- ・リアルタイムを使わない方法による授業の実際はとても参考になりました。
- ・講義（動画）を2つに分けて適切な分量にしてあり、インターバルを入れて取り組むことができるのがよいと思いました。
- ・先生のお話聞き取りやすく、ビデオも2つに分けられており、受講者にとって受講しやすい形になっていたと思いました。
- ・お話しされているスピードも非常に聞きやすかったです。
- ・適量のパワポを示しながら、言葉で丁寧に説明している。その説明がたいへん分かりやすく、理解が深まる。
- ・講義（動画）では、学生がわかりやすいように具体例を入れながら説明していて、とても理解しやすかったです。
- ・今の大学生が使う言葉で説明する、最新の映画ネタ、時事的な話題などを用いるなど、イメージがわかりやすい。
- ・じゃあこれはどうなの？と疑問が出やすいところを見越して、補足説明をしてくれている。
- ・内容もビッグファイブのそれぞれの特性がどのようなものなのか、深く掘り下げる内容で大変興味深く視聴させていただきました。
- ・ビッグファイブの説明のなかで、各特性のデメリットだけでなくメリットも丁寧に説明しているので、自分がこの特性にあてはまると感じた学生もネガティブになることがない。
- ・日常的な例や身近な人を思い浮かべさせながら、ビッグファイブの各因子について非常にわかりやすく説明されていて、学生の理解が促されていると思います。
- ・Nettle (2007)の研究や、「開放性と政党選択」についてお話されていたところが興味深く感じられました。質疑応答に書かれているような、最先端の研究内容や、ラボのご研究など、さらに聞かせて頂きたいと感じ

られました。

#### 【配布資料】

・配布資料をシンプルなもの（白地に黒文字）にしており、学生が配布資料を印刷する場合への経済的な配慮がされていて、よいと思いました（インクの節約、白黒印刷）。

#### 【小テスト】

- ・毎回の小テストの分量が、多すぎることなくちょうどよい。また、学生からの疑問に対するフィードバックを口頭ではなく、文字で示しており、学生も理解がしやすいと思われる。
- ・小テストも授業全体をカバーしていてとても参考になりました。
- ・小テスト（平均点の掲載）を含めて、1回の授業の流れがうまく構成されていると感じました。

#### 【質問等へのフィードバック】

- ・「疑問の一部に回答します。」と書かれているが、かなりたくさん疑問に一つ一つ丁寧に回答されているので、回答をもらって満足した学生も多いだろう。
- ・質問については、かなりの量に回答されており、質問をした学生の学習のモチベーションは高まるだろうと想像しました。一方、これだけの分量の質問への回答、負担感は大きくないのかが率直に気になりました。
- ・疑問への回答が早くて丁寧に、参照すべき文献も紹介されており、学習意欲が高まる（学習も深まる）と感じました。
- ・学生の質問に対する一つ一つの真摯で迅速なご回答から、小塩先生の教育に対する真摯さと博識が大変よく伝わって参りました。

## 2. 質問

- ・対面でも同じ内容を扱ったこともあるかと思いますが、オンデマンド形式で行うにあたって変更した部分などがありますでしょうか。
- ・対面の際も、今回の授業と同じような形式で疑問への回答を行っていたのでしょうか。
- ・小テスト提出後に解答（正解）のフィードバックがすぐに来たのですが、課題の締切期限前でもフィードバックをなさっていますか？ 学生が他の人へ解答（正解）を教える行為が起こることをおそれて、私はフィードバックをすぐにする設定にはしなかったのですが、その点は心配されていないですか。

### ③ 主任の意見

このたびは授業を見学させていただき貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。授業でのお話のトーンやテンポ感、フィードバックのさじ加減なども含めて、大変参考になりました。

### ④ 担当者の意見

このたびは、授業をご視聴いただき、また多くのコメントをいただきありがとうございました。ご質問にお答えさせていただきます。

- ・オンデマンド形式で変更した部分について  
オンラインでの公開ということで、たとえば「このキャラクタがこの特性に典型的では」といった内容や、そのキャラクタの画像を省いたりする配慮は行っています。あとはやはり、その場で学生の皆さんの顔が見えませんが、普段の授業では顔を見ながら分からなさそうな顔を見たところで補足をするのですが、

それができない点が異なっていると思います。

・対面の際も同じような形式の疑問への回答を行うのか

対面の際には、感想を記入してもらった用紙を配布し、その一部（10枚程度）への回答を次回の授業の最初にフィードバックするという形式をとっています。その際には、選んだ用紙をスキャンして氏名部分は隠し、スクリーンに投影して答えています。学生の皆さんのフィードバックからは学ぶことが多くありますので、オンラインで制約ありませんのでできるだけ回答することは心がけています。目を通して回答するのに1～2時間はかかってしまいます。

・小テストへの解答に関して

すみません、そのあたりの Google の設定はまだ慣れていない部分があります。本務校で使用しているシステムでは、回答期限を過ぎてからのフィードバック設定ができますので問題はないのですが、今回初めて Google Classroom 等々のシステムを使用しましたので、このあたりは今後も学んでいこうと思います。



2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2020 年 11 月 27 日

人間科学科言語科学専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 松尾慎

|         |                    |           |                                    |
|---------|--------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目 | 言語文化論              | 授 業 担 当 者 | 熊谷智子                               |
| 授業形態    | オンライン授業            |           |                                    |
| 授業参観実施日 | 11 月 24 日 (火) 1 時限 | 参 観 者 数   | <u>4</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>2</u> 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

様々な専攻の学生が受講する専攻科目の授業内容、方法などに関し学び合うため。

② 参観者の意見

授業冒頭、約 20 分を使い前回授業の終わりに学生が提出したコメントを紹介し、熊谷教員からコメントや追加の情報が提示された。前回の授業のテーマは「日韓の話題選択行動」であり、初対面の相手との会話でどんな話題を選び、どんな話題は避けるかを日本と韓国で調査した結果をもとに、話題選択に影響を及ぼす社会・文化的背景や対人配慮の異同について議論したとのことである。それに関し、学生は自由にコメントを書いてよいことになってる。コメントに関してはワードでまとめられており学生に配布されていた。4 ページあり、学生がしっかりコメントを書いていることが窺えた。学生からのコメントにはサークル活動での例を挙げたり、韓国からの留学生らしき学生は韓国での例をコメントに書いたりしていた。熊谷教員はテンポよくコメントを取り上げ、研究者の観点から解説を加えていった。その解説はわかりやすく、なおかつ研究者としての視点を外さない的確なものであった。1 限の講義ということで学生の中にはまだ心身のコンディションが整っていない者もいるかと思われるが、この 20 分によって前回での学びを思い起こし、本日のメインの講義部分に入るための準備がしっかり整うように感じた。

当日の授業のテーマは、「日本語コミュニケーションにおけるフェイスワーク：謝罪への着目から」であった。授業はワードで 2 ページの資料が学生に配布されている。最後には参考文献リストが丁寧に載っており学びを深めたい学生にとっては非常にありがたいものとなっている。授業の進行はパワーポイントを使って行われた。フェイスワークに関し、熊谷教員自身が行った調査を具体例として提示し、授業を進めていった。調査でも使用した具体的な場面（ドラマの一場面）が示された。

男性会社員がパスポートの緊急再発行依頼をしている場面

M：紛失したのは、ほんとにわたくしの不注意で。

F：はあ。

M：(頭を下げながら) 申し訳ないと思ってるんですが、17 日の出張には、どうしても、どうしても、私が行かなきゃなりません。

F：はあ。(Mを見ながらうなずく)

M：なんとかパスポートを再発行していただくわけには、いかないでしょうか。

こうした具体例があるので学生も自分ごととして内容に惹きつけられるだろうと感じた。この場面に関し、調査協力者がどのように感じたかが紹介された。日本人でも性差、世代差がある人の結果、また、ベトナム人、ブラジル人、フランス人の調査協力者の結果も提示された。そして、日本人のコミュニケーションの特徴として、「自分で弱みを見せて、救ってもらおう」というパターンがあることが解説された。紹介された例は限られてはいたが、異文化間コミュニケーション的な要素も含まれているように思えた。

その後、話題は、「日本人の『不誠実な謝罪』?」、「日本語コミュニケーションにおけるフェイス保持のパターン」と続いた。「つまらないものですが」という表現に関しても、様々な観点から解説が加えられ非常に興味深かった。

最後の10分ちょっと、ブレイクアウトセッションで学生たちは、本日の授業のテーマに関し、自由にグループになって話し合う時間が設けられ、最後の5分のところで全体に戻り、コメントをチャットで打って授業は終了となった。

熊谷教員の話し方は穏やかであり、オンライン授業でやや疲れが出ている学生にとっても、非常に落ち着けるクラスの雰囲気であると感じた。なおかつ、授業内では英語で書かれた先行研究も紹介され授業の質はしっかりと保証されていた。

### ③ 主任・委員長等の意見

本授業は言語科学専攻の専攻科目「言語文化論」とコミュニケーション専攻の専攻科目「ことばと文化」の合同開講科目である。本授業の選定理由は、「様々な専攻の学生が受講する専攻科目の授業内容、方法などに関し学び合うため」であった。当日の参加学生は43名ほどで、熊谷教員によれば半数ほどが言語科学専攻、コミュニケーション専攻以外の専攻に所属している学生とのことである。授業ではコミュニケーションの具体的な場面を取り上げ、平易なことばで丁寧に解説が加えられていた。十分にどの専攻の学生でも内容を理解できることであろう。なおかつ、英語で書かれた先行研究も提示、解説され、担当教員の研究者としての専門性が十分に生かされた内容だったと思う。

学生がブレイクアウトセッションでグループ活動を行っている間、短い時間ではあるが授業担当者と授業を参観した教員でオンライン授業に関し少し対話を行った。ブレイクアウトセッションに分けた場合、グループによっては沈黙が続くグループもあることが話題となった。「グループを固定してほしい」という学生もいたそうだが、熊谷教員は、「毎回、誰と同じグループになるかわからない状況の中で、何とかコミュニケーションをしていくことが、この授業の内容を考えても求められるのでグループの固定はしないと答えたそうである。その考え方に共感した。

### ④ 担当者の意見

この授業は昨年度から初めて担当し、その経験をもとに今年度、若干の内容変更・更新をしながら行っています。特に今年度はオンラインとなり、まだ半分手探り状態が続いています。授業資料は従来の対面授業でのプリントを事前にメールでファイル添付し、授業では同じ内容をパワーポイントで見せながら解説しています。講義形式のオンライン授業ですが、毎回の学生のコメントからは関心を寄せてくれている様子が感じられます。今回、参観の先生から授業の構成や内容について、また所属専攻がさまざまな受講者に対する解説や具体例の出し方について、概ね好意的な評価をいただき、ほっとしております。

また、ブレイクアウトルームでのグループ・ディスカッションについて、学生のグループ活動中に先生方と意見交換できたことが非常にありがたかったです。時に話し合いが停滞してしまうグループへの対応が難しいと思っていました。対面授業であれば何気なく教室を歩き回りながら様子を見て声をかけられるところが、オンラインでは教員の特定グループ（ルーム）への「参加」が明確な「侵入」のようになってしまうこと、教師が入っていくことで学生が意識して話が逆に止まってしまうことの問題などについて、松尾先生はじめ他の先生とも共有でき、すぐに解決策を出すのは難しいことですが、今後も考えていきたいと思いました。

## 2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 1 月 29 日

---

科目・専攻・委員会名 数理科学科・数学専攻

---

主任・委員長等責任者氏名 竹内 敦司

---

|   |  |           |  |
|---|--|-----------|--|
| 授 業 科 目   | 線形代数学 II   | 授 業 担 当 者 | 山内 博   |
| 授 業 形 態   | できるだけ具体的に書いてください<br>Google Drive 上の動画ファイルによるオンデマンド形式 |           |  |
| 授 業 参 観 実 施 日   | 11 月 18 日 (水)  | 時 限       | 参 観 者 数 <span style="float: right;">9 名<br/>(内、非常勤講師 1 名)</span> |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 数理科学科 1 年次の必修科目であり、学科全体でその学習内容を把握しておくことが重要であるため。</p> <p>② 準備されていたスライドの分量が適切であり、一つ一つの内容に丁寧な説明がゆっくりとなされており、大変分かりやすい授業であった。特にスライドのページ数をうまく抑え、話がまとまって頭に入るように工夫されている点や、毎回丁寧に演習問題の指示が出されており、学生のやるべき事柄が整理整頓されている点、解説のスピードも 1 年次の学生に程よいものである点など、参考になることが多々あった。</p> <p>③ 線形代数学で習う内容、特に今回の授業の中で取り上げられていた固有値、固有ベクトルの話は、数学の中だけではなく、化学や物理学などにおいても非常に重要なものである。オンデマンド形式での授業の中での双方向性を確保するために、Google Forms を利用して質問を受け付け、その回答内容を Google Classroom にて共有する形を取っている点に感心した。またこの授業では、毎回の学習内容の確認の意味を込めて課題が出されており、担当者が毎回、採点して学生に返却していることも、学生の学習意欲を高めることに役立っているように思われた。</p> <p>④ 授業で使用するスライドはダウンロードを可能にしているため、ダウンロードすることで満足してしまう可能性がある。その辺りは学生の自主性に任せているが、最後に期末試験を筆記で行うことで学力を検査することになっている。一枚ごとのスライドをひとまとめの話にする方が、受講学生にとっても分かりやすいと考えているが、文字の大きさをどうするかについては色々と苦勞をしているところである。また通常であれば、1 回の授業動画ファイルのサイズが 150MB を超えるなど、大きくなりがちであるが、担当者自身の様々な工夫によって非常にコンパクトなサイズになっている。</p> |  |           |  |

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021年 1月 13日  
 数理科学科・情報理学専攻  
 科目・専攻・委員会名 \_\_\_\_\_  
 主任・委員長等責任者氏名 安藤耕司

|         |                |       |                                    |
|---------|----------------|-------|------------------------------------|
| 授業科目    | マルチメディア概論      | 授業担当者 | 小舘崇子                               |
| 授業形態    | Zoomによるオンライン授業 |       |                                    |
| 授業参観実施日 | 12月14日(月) 5時限  | 参観者数  | <u>3</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>2</u> 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

- ① プログラミング言語 (python) とライブラリを利用して画像などのマルチメディアデータを取り扱うオンライン授業は、広い分野に対して多くのヒントを含むと期待される。
- ② 本日から OpenCV を用いた実習ということでした。Python が初めての学生にもできるように、OpenCV のインストールからゆっくりと始まり、うまくいかない学生からの質問にも丁寧に答えられていました。オンラインで実習を行うのは、環境が学生ごとに異なるのでなかなか難しいと思うのですが、2つの環境に対応した説明を準備されていてうまく対処できていたように思います。また、Zoom の挙手機能を用いて学生の進行具合を確かめたり、授業の最後に投票機能で理解度を確かめたりと、学生への十分な配慮が感じられました。コードはあらかじめすべて書いたファイルを提供するのではなく、説明付きの資料からコピーアンドペーストなどしてその場で作っていくような形で、初めて学ぶ学生にとって理解しやすいものになっていたのではないかと思います。
- プログラミングを目的としない授業で、手段として利用することは時々あります。今回のように、あちこち条件を変えて、どうなるのか、「やってみる」という授業は興味も湧くと思いますし、理解も深いので、是非取り入れたい方法の一つだと思いました。実習は準備も含めて、また、講義の中でも時間がかかるのですが、その分、効果が大きいと感じております。特に、画像でしたので、一目瞭然、とても感動しました。いい時間に休憩を入れて、インストールに問題のある人に対処したり作業する時間を見計ったり、対面では普通のことですが、オンラインで、相手が見えない中で、おそらくチャットでやりとりされているのだと思いますが短いチャットのやりとりから、状況を理解することが求められると改めて思いました。事前の講義資料の準備、ファイルの準備など、オンラインで何を用意したらいいのか、大変勉強させていただきました。
- ③ 専攻主任 (安藤) は所用で参加できなかったが、参観者の意見を読んで状況を把握することができた。オンラインの遠隔でコンピューター実習を行うことは、情報理学専攻の大部分の教員にとっての重要課題である。一つの難しさは学生ごとに所有 PC のオペレーションシステムが Windows と Mac に分散しており、メモリー容量などのハードウェアスペックも統一されていない点である。このため、必要なソフトウェアのインストールなど、実習のための環境構築から始めなければならない。これは 4 号館の情報実習室で授業を行っていた昨年度までと大きく異なる点である。この点で Python 言語は比較的扱いやすく、Google Colab のようにクラウドサーバー上に実行環境を提供するサービスも近年利用可能になったので、ウェブブラウザだけで実習を行うことができている教員もいる。今回の授業のテーマである画像処理では、やはり学生各自の PC にソフトウェアをインストールさせる必要があったようで、それを遠隔から指示するのが容易でなかったことは想像に難くない。しかし、ソフトウェアのインストール作業も学生にとっては良い経験となるはずで、発展的な自主学习への足掛かりを提供するという意味

で、教育的に無駄ではなかったと期待している。一つ注意を惹かれたのは、プログラムコードを資料からコピー&ペーストできるようになっていたという点である。これは状況にもよるのだが、時間が掛っても自分の手で入力し、実行時のエラーを修正していく方がコードの意味や形式について多くの気付きがあるという考え方もある。もちろん、担当の小舘先生はこれも十分に承知の上で現在の方法を採用されているに違いない。この辺のバランスを授業内容に応じて適宜最適化していくことは、他の教員も苦慮しながら進めているはずである。専攻のメーリングリストや懇談会で情報を共有する機会もあるので、今後も意識していきたい課題である。

- ④ 画像処理の演習としてプログラムを実行させましたが、プログラミング未経験の学生もいるため、中身の説明よりも、プログラムの実行と結果の確認を目的としました。学生のパソコン環境も異なるため、2つの異なるソフトでのプログラミングの説明を行い、予想以上に時間がかかってしまいました。質問はチャットで個別に対応しましたが、わからなくても質問しない学生がいたかどうかまではこの回の授業内では確認がとれませんでした。演習は進度にばらつきが出るので、進度に応じて進められると良いのですが、遠隔では目で見て確認できない分、難しかったです。

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2020年 12月 3日

科目・専攻・委員会名 総合教養科目運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 曾我 芳枝

|         |              |       |                                     |
|---------|--------------|-------|-------------------------------------|
| 授業科目    | 現代社会と教育      | 授業担当者 | 山辺春彦                                |
| 授業形態    | オンライン (Zoom) |       |                                     |
| 授業参観実施日 | 11月 17日 (火)  | 5時限   | 参観者数<br>_____3名<br>(内、非常勤講師_____0名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由： 履修者の多い授業における担当者の工夫を共有するため。

② 参観者の意見：

1. 総合教養科目「現代社会と教育」という講義を参観させていただきました。今回は Zoom を使用した遠隔講義ということだけではなく、履修者が 130 名を超えていることも考え併せますと、山辺先生におかれましてはご準備に大変ご苦労されたことと存じます。

近代日本の教育に関して、戦後日本までの教育課程のご講義を拝見いたしました。大変詳細なレジュメを画面共有で表示させながら、とても聞き取りやすい話し方、適度なペースで講義いただきましたので、門外漢の私も大変興味深く受講させていただきました。また、途中で、数分間の休憩を取られ、履修者の学習環境を配慮した工夫が施された講義でございましたので、今後の私自身の講義運営にも参考となる点が多々ございました。

敢えて、欲を申し上げれば、レジュメだけではなく先生のご様子もスピーカービューで画面上に表示されますと、従来、先生が対面でご講義されているときに受講生が感じられる臨場感のある講義となったのではないかと存じます。しかし、このように申し上げましたが、これは先生のお考えに基づく講義スタイルでございますので、私が申し上げるべき事項ではないことも承知しております。いずれにいたしましても、とても充実した講義でございました。この度はありがとうございました。

2. 声が聞き取りやすく、資料も見やすかったです。途中で休憩を入れていたので、リフレッシュできました。先生が内容の解説を行う、という講義形態でしたが、学生からの質問や学生の理解度の確認などは どのように行っているのか伺いたかったです。

私の担当科目とは授業の性質が異なるため、大いに参考になったとは言い難く、しかし他の先生の 授業を拝見することができ大変勉強になりました。

③ 主任・委員長等の意見：

普段、自分の授業のことに追われ、先生方のご講義を知ることなく過ごしておりましたが、本日、受講生のような気持ちで授業を受けさせていただき、良い体験となりました。先生の落ち着いた言葉が、とてもわかりやすく印象的でした。また、途中で5分間ほどのリフレッシュタイムがあり、疲れることなく受講できました。先生のお姿を見ながら受講できるともっと理解しやすい授業になったのでは、と少し感じました。ご準備がきちんとなされ、とても分かりやすい授業でした。あ

りがとうございました。

履修者の多い授業における担当者の工夫を共有するというテーマにつきましては、チャットや、メールをお使いになり、個別にお答えになったり、次回の授業で全体にお答えになったりという方法をとられ、学生の理解に努められていることを伺い、参考にしたいと思いました。

④ 担当者の意見：

・Zoom ミーティングで授業を行い、受講者のマイクとビデオはオフにしましたので、学生の様子は、普段の様子と変わらないについては、その限りで感じたものとしてお受け取りいただきたく存じます。ご参観くださいました先生方のご意見を頂戴し、今後の授業の改善に活かしてまいりたいと存じます。

・Zoom を利用しており、受講者からの質問をチャットで受け付けているのですが、どうしても授業の内容と質問の間にタイムラグが生じてしまうので、その場で答えることはやめるようにしました。場合により授業の最後にまとめて答えるか、チャットで個別に返信するか、授業後に個別にメールで答えるか、次回の授業で答えるという形を適宜とっています。

⑤ その他：

今回は、Zoom を利用した授業であったため、履修者の多い授業における担当者の工夫を共有するということについて、対面授業と違った方法を伺うことが出来てとても参考になりました。

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2022年 1月 20日

科目・専攻・委員会名

キリスト教学科目運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

遠藤勝信

|  |                           |       |                   |
|--|---------------------------|-------|-------------------|
| 授業科目   | キリスト教学 II (キリスト教と文学)      | 授業担当者 | 竹林一志              |
| 授業形態   | オンライン (Zoom 利用) による同時双方向型 |       |                   |
| 授業参観実施日  | 12月14日 (月曜) 3時限           | 参観者数  | 4名<br>(内、非常勤講師0名) |
| <p>① 授業科目の選定理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教文学の専門家であり、非常勤講師として本学のキリスト教教育にご助力くださる竹林先生から&lt;キリスト教文学&gt;について学びつつ、本学学生の&lt;授業態度&gt;等、外部からの視点でご助言を頂くことを目的とする。</li> </ul> <p>② 参観者の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすい丁寧な講義だった。</li> <li>授業が一方通行にならないように様々な工夫をし、きめ細かな配慮をして学生の理解を確認しつつ、学生たちとのコミュニケーションを取りながら授業が進められていた。</li> <li>学生たちも興味深く熱心に授業に参加していることが伝わってきた。</li> <li>前回の授業を振り返るために予め出されていた課題の答え合わせから授業を始める仕方は、全体の学習目的を確認しつつ学ぶ点で効果的であった。</li> </ul> <p>③ 主任・委員長等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業という制約がある中で、学生ひとりひとりを大切にし、レジメを学生に読ませる等、コミュニケーションを取りつつ、進められる授業だった。</li> <li>一回一回の授業で文豪たちの思想及びクリスチャニティとの関わりについて学べるこのコースが、本学のキリスト教学の講義のひとつとして在ることの意義深さを思った。</li> </ul> <p>④ 担当者の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貴学には真面目で熱心な学生が多く、やり甲斐がある。今後とも、学生のことをよく考え、祈りつつ、良い授業ができるように最善を尽くしたいと思う。</li> </ul> |                           |       |                   |



2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021年 3月26日

科目・専攻・委員会名

第一外国語運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

塩原 佳世乃

|         |                 |       |                     |
|---------|-----------------|-------|---------------------|
| 授業科目    | Reading IB      | 授業担当者 | 浜名 恵美               |
| 授業形態    | オンライン [Zoom]    |       |                     |
| 授業参観実施日 | 11月 26日 (木) 4時限 | 参観者数  | 12名<br>(内、非常勤講師 8名) |

(①授業科目の選定理由、②実施後の参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

Reading では zoom を使用しないクラスがあり、zoom による浜名先生の授業を今後の遠隔授業の参考にしていただきたいため。

② 実施後の参観者の意見

・ブレイクアウトルームをどこで使うかが、自分と異なっていて、参考になりました。(自分はいつも終わりのほうで行っていたので、時間がないと飛ばしていました。)

・本文の各段落について、Reading Comprehension の回答から確認するだけだったので、びっくりしました。ふだん、各段落の内容についてはもっと丁寧に、学生の理解を確かめています、学生の英語のレベルに合わせてのことなのかと推測いたしました。

・問題の解答を学生が一人一人マイクをオンにしてスムーズに答えていて準備が良くできている印象を受けました。

・解答の内容の意味にも触れられていて説明を丁寧にされていて学生が分かりやすい環境を整えておられると思いました。

・ブレイクアウトセッションも、急遽参観者も参加させていただく流れになって 学生たちの話し合いを聞かせてもらってかえって良かったです。

・ブレイクアウトセッションが学生にとって有意義な時間になっていると感じました。各自の問題意識や与えられたテーマについて自由に話している様子を垣間見ることができて良かったです。

・参観授業をありがとうございました。同じ教科書を使用しているので、興味深く参観させていただきました。

・冒頭と終わりの5分ほどだけですが、参観いたしました。 zoom の切り替えがスムーズで、教員・学生ともに慣れていらっしやると感じました。

・熱意あふれ、先生の長年にわたるご研究の蓄積や、学生への真摯な思いも垣間見られる授業で、時間配分やグループワークの結果の発表方法など、とても勉強になりました。Zoom での授業運営方法にも安定感があり、私も実際に教室にいる気分になりました。ありがとうございました。

・学習者とテキストの答え合わせをする以外にも、双方向のコミュニケーションがあっても良い気が致しました。

・遠隔ということで、通常の授業よりも参観がしやすかったのは良かったと思います。来年度以降、また対

面授業ができるようになったとしても、公開授業は対面+遠隔でできると良いと思いました。

- ・授業参観をした授業の中には、参加教員宛に授業説明や講演会の方法で紹介してくださるものもありましたが、この授業は普段の授業の様子を公開して下さり、ためになりました。

- ・これまでは自分や他大学の授業と重なっていた Reading 科目が、ズームということで参観可能になったのが嬉しかったです。

- ・大変参考になる機会をつくってくださってありがとうございました。

- ・Zoom 授業を参観できてとてもよかったです。ただ、受講生がゲストになってしまったり、画面上で交じり合ってしまった参観者と受講生をどのように振り分けるか、当日のその場で対応するのは大変だったと思います。浜名先生が即座に判断なさり、落ち着いた対応をしてくださったので、参観した教師もブレイクアウトセッションに入って学生の様子を知ることができて大変良かったです。Zoom 授業に関しては、今後の授業参観に活かせると思います。

### ③ 主任・委員長等の意見

- ・2020 年度はほとんどの授業が遠隔で行われるというかつてない状況であった。各教員がより良い授業形態を模索する中、Reading 受講学生より、「毎週の授業時間の始めに課題を webclass で提出し、授業時間の最後に解答が示されるだけで、Reading の能力が向上する気がしない」などの不満の声が寄せられていた。そこで、授業経験が豊富でデジタルリテラシー能力の高い浜名先生に zoom での Reading 授業を公開していただけることになり、また zoom のため例年より多くの同科目担当教員に授業を参観していただくことができ、有意機であった。

### ④ 担当者の意見

- ・英米でコロナ禍の遠隔授業が続き心理的・精神的変調をきたしている学生が増加しているとたびたび報道されていたので、この授業では、遠隔でも「つながっている」「相互作用している」ことを重視し、学生が安心できるように心がけました。授業内容・方法に関しては改善すべき点はありますが、ほぼ全員の学生が非常にまじめに勉強してくれましたし、ブレイクアウトセッションで直接会ったことのないクラスメートと話すことを楽しみにしてくれていたことがわかり、よかったです。

### ⑤ その他

(第一外国語非常勤講師からの意見) : Reading だけの問題ではないのですが、学内 LAN を使用する寮生から、ネットが不調で zoom に参加できないすぐ落ちるという連絡がかなり頻繁にあります。学内でのネット環境を改善していただければと思います。

2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 11 月 26 日

第二外国語運員委員会

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 白井 恵一

|         |                                 |           |                      |
|---------|---------------------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目 | フランス語 (初級)                      | 授 業 担 当 者 | 白井 恵一                |
| 授業形態    | Google Classroom を利用する同時双方向遠隔授業 |           |                      |
| 授業参観実施日 | 12 月 15 日 (火) 1 時限              | 参 観 者 数   | 3 名<br>(内、非常勤講師 1 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

①Google Classroom のみを使用する外国語の同時双方向授業という実験的な試みであるため。

③④教室で対面にて行う授業を遠隔で Google Classroom を使って行うもの。

具体的には

- ・文法項目の説明などは予め文書にまとめておき、授業前、あるいは授業中にアップして読んで理解する時間をとる。

- ・それに基づいて、その項目に関する練習問題を「課題」「質問」などで学生に提示する。
- ・学生が解答している間、担当教員は解答内容を、画面を通してみて回り、適宜コメントをつける。
- ・時間を決めて学生に提出させ、全体的な注意事項などを「クラス・コメント」にして提示する。
- ・理解が十分と判断すれば次の項目に、足りないと判断すれば補足の問題を行う。
- ・これを繰り返す。
- ・授業後にまとめの問題を次週までの課題とする。

対面や、ZOOM などを使った授業に比べて「説明」が不足しがちだが、トライ&エラー型の授業で、違ったタイプで同等以上の効果を出すことができる。

「話す」「聞く」技能の訓練に弱いのが、初級は 2 コマペアの授業なので、もう 1 つのクラスでこれを補う。

②・対面の授業ですと、これをするには学生が書き終わってからそのノートを覗き込むか、あるいは黒板に書いてもらう必要があるのですが、むしろ対面よりこちらのほうが、学生にとっても教員にとってもやりやすいのではないかと思います。ただ、複数の学生が、お互いの文章を共有しているのかどうか、まではわかりませんでした。

- ・ Google Classroom だけでどうやってオンラインオンタイムの授業をなさるのか、フランス語は全くわかりませんが、その手法に大きな関心がありましたので、参観させていただきました。

google Document に学生が回答を作成している様子をリアルタイムで見られるのは、答案を作成している手元を見ているわけですから、例えば、スペルミスして消して直したりしている様子や、

あるいは、コピー&ペーストをすればわかってしまいますし

リモートにして、対面より対面していると感じました

回答していたら、突然先生のメッセージが表示されたりするのでしたら

学生さんは、きっと緊張して受講されていると思います

履修者数がわかりませんでした。巡回はどのようになさっているのでしょうか  
回答の様子をご覧になりながら、適宜ストリームにコメントを入れるという機動性には本当に驚きました

ひとりずつに先生との共有ドキュメントを作成することができる、ということは知りませんでした  
この状況で試験ができませんので、どうしようか、と悩んでおりました  
試験という形にはしませんが、早速利用してみたいと思います

**Google Classroom** は愛用しておりますが、「質問」は使ったことがありませんでした  
短い回答を得るには簡便な方法だと思いました。

適当な時間をおいて回答が配信され、  
声も映像も何もないのに、双方向でのやりとりがなされていることに驚いております  
**ZOOM** では、声を出しにくい、という意見も聞いており、チャットは有効、と思っておりましたが  
皆のチャットが混ざってしまい、繋がりを追うのが難しいです  
その点、**Google Classroom** では、一人ずつなので、**LINE** のように、その相手とだけの会話が表示でき  
会話の繋がりが把握しやすいと思っておりました  
これをオンラインで利用するとは考えが及びませんでしたので、大変勉強させていただきました  
オンラインですと、限られた時間内での対応になりますので、  
履修者数に制限があるかとは思いますが、適性規模であれば、  
オンラインにこのような方法があったのか、と大きな衝撃を受けました

学生の側にどのように表示されるのかがわからないのが、**Google Classroom** の難点でもありますが  
学生として参加させていただいたことで、学生の画面を体験することができました

本日は、大変有意義でした  
ありがとうございました

## 2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 11 月 26 日

科目・専攻・委員会名

第二外国語運員委員会

主任・委員長等責任者氏名 白井 恵一

|         |                                 |           |                                    |
|---------|---------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目 | フランス語（作文と文法）                    | 授 業 担 当 者 | 白井 恵一                              |
| 授 業 形 態 | Google Classroom を利用する同時双方向遠隔授業 |           |                                    |
| 授業参観実施日 | 12 月 14 日（月）4 時限                | 参 観 者 数   | <u>4</u> 名<br>（内、非常勤講師 <u>2</u> 名） |

（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）

①Google Classroom のみを使用する外国語の同時双方向授業という実験的な試みであるため。

③④教室で対面で行う授業を遠隔で Google Classroom を使って行うもの。

具体的には

- ・文法項目の説明などは予め文書にまとめておき、授業前、あるいは授業中にアップして読んで理解する時間をとる。
- ・それに基づいて、その項目に関する練習問題を「課題」「質問」などで学生に提示する。
- ・学生が解答している間、担当教員は解答内容を画面を通してみて回り、適宜コメントをつける。
- ・時間を決めて学生に提出させ、全体的な注意事項などを「クラス・コメント」にして提示する。
- ・理解が十分と判断すれば次の項目に、足りないと判断すれば補足の問題を行う。
- ・これを繰り返す。
- ・授業後にまとめの問題を次週までの課題とする。

対面や、ZOOM などを使った授業に比べて「説明」が不足しがちだが、トライ&エラー型の授業で、違ったタイプで同等以上の効果を出すことができる。

②・初めて学生側から Google Classroom を利用しました。もっと余裕を持って受講できるかと思っていましたが、結構疲れました。ありがとうございました。

・ Google Classroom を使ったリアルタイムの授業というのは初めてで、こういうやり方もあるのか、ととても参考になりました。練習問題をやりながら学生は限定公開のコメントで質問したりするのでしょうか。質問もしやすそうですね。

ただ初級の授業だと発音の問題があるかと思うのですが、発音については学生が各自音源を利用して学習しているのでしょうか。あるいは先生が直接ご指導される機会などもある（あるいは前期の発音の段階などであった）のでしょうか？

フランス語は日本語にない発音も多く自分で正確な発音を習得するのは大変だと思うのですが、音声を介さない Google Classroom での授業で、音声面について学生に指示を出されていることや、ご指導を工夫されていることなどあれば、ぜひご教示いただきたいです。

・ Google Classroom を用いられた同時双方向型の御授業を初めて経験させていただき御礼申し上げます。

はじめ操作しながら、課題や解説を賜り、拝見する時間を過ぎました。

緊張感と新しいことを学ぶ楽しさを味わわせていただきました。  
机間巡視しながらみてあげられるように指導できると教えていただき感謝しております。

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2020年 12月 13日

科目・専攻・委員会名 日本語科目運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 熊谷 智子

|         |               |           |                    |
|---------|---------------|-----------|--------------------|
| 授 業 科 目 | 日本語表現法        | 授 業 担 当 者 | 宮本 淳子 先生           |
| 授 業 形 態 | Zoom による遠隔授業  |           |                    |
| 授業参観実施日 | 12月 3日(木) 1時限 | 参 観 者 数   | 4名<br>(内、非常勤講師 3名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

①授業科目の選定理由

日本語のコミュニケーション能力(書く・読む・話す・聞く)を遠隔授業で効果的に伸ばしていく工夫について学ぶため。

②参観者の意見

いろいろな点で、とても参考になる授業であった。

第10講「プレゼンテーションをする(2)」で、授業では口頭表現の練習と要約の解答確認がなされた。最初に、次週までの課題となる映像視聴(マイクロプラスチック問題をテーマとしたTEDトーク)に関する紹介と指示があった。次に、1人5分の目安で5人の学生による口頭発表(ビブリオバトル)が行われた。その後、論文要約のタスクについて画面共有による提示をもとに答案の解説やコメントが行われた。

全体に、どの課題・活動も非常に入念に設計されたものであると感じた。

教室外学習のTEDトークの映像視聴は、授業で口頭表現の練習を行う時期に発表における話し方、表情、身振りなどを意識させ、自身のスピーチの反省や今後の工夫につながる気づきを促す効果がある。

ビブリオバトルは、個々人にとって「読む」を「話す」につなげる活動であるが、同級生の紹介した本をきっかけにさらに読書の機会が増える効果も期待される。発表は指名でなくボランティア制であり、申し出まで若干間があいても教員が辛抱強く待つなど、自発性を育てる意図が感じられた。発表方法は各人の選択で、パワーポイントを使う学生も自作の用紙(画用紙大)を掲げて話す学生もいた。1年生の多いこの授業では、一律にパワーポイント使用を促さずに各々の工夫に任せることは、発表そのものへの積極性を失わせないためにも適切な判断だと思った。また、学生の発表への教員の態度も非常に参考になった。発表中は、時々メモをとりつつも終始明るい表情で顔を上げ、うなずきをまじえて、関心をもって聞き入る態度が印象的だった。学生の発表がいずれものびのびと明るくなされていたのも、教員側の共感的に傾聴する様子が大きな励ましになっていたと考える。そして、1人ずつの発表の直後には、話し方や話の構成、論理展開、資料の提示などについて、発表者本人のみならず他の学生も参考になるような具体的かつ的確なコメントと助言がなされていた。こうしたコメントを念頭にTEDトークの映像視聴を行うことで、口頭発表のスキルがさらに定着することと思われる。なお、ビブリオバトルで学生の発表に対して他の学生からも質問やコメントをさせる形もあり得るだろうが、おそらく時間的な制約などで割愛されているものと推察した。

最後の20分ほどは、学生たちが既に各自行っていた論文の要約練習(キーセンテンス、重要な用語の定義の抜き出しなど)の解答提示と解説が行われた。要約の技術だけでなく、全体の構成、引用の書式、図表

の提示方法、記述の仕方など、学生たちがレポートを書く際に取り入れられることを本物の論文を使いながら学ばせていた。画面共有の解説用資料も色分けなどで分かりやすく、見やすかった。

全体に、複数の指導内容や活動が盛り込まれていながら、せわしない感じがなく、かといって間延びもせず、あっという間に思える充実した 90 分であった。学生たちは発表時だけカメラをオンにする形だったが、雰囲気はなごやかで、オンライン授業の距離感はあまり感じられない一方、Google Classroom も利用した様々なメディアの活用も含め、オンラインの特性が活かされていた。その意味では、対面授業とはまた異なる日本語力育成方法の可能性が感じられ、同じ科目の担当者として学ぶところの多い授業であった。

### ③主任・委員長等の意見

「日本語表現法」はアクティブ・ラーニング科目であり、グループワークや課題の多い授業である。また、文章の添削や口頭発表への助言等を通じて、個々の学生と教員の相互行為も密である。そうした科目が今年度は急にオンライン授業となり、担当の先生方には対面授業なら不要な工夫や内容調整をお願いしている。その中で、②の記述の通り、宮本先生は非常に質の高い授業運営をしてくださっていると思った。

オンラインの利点として、Google Classroom を用いた課題・添削のやりとりが行われ、映像視聴など各種課題によって教室外学習の幅が広がられていた。タイムリーなテーマの映像視聴を課題に盛り込んで、学生の関心と意識を高める工夫も見られた。また、欠席者や回線不調などによる途中退出者のための録画の提供もなされているとのことであったが、これもオンライン授業であるから可能になっている。

その他、参観中に気づいたのは、口頭発表を聞く際の教員の表情やうなずきの様子が、Zoom だからこそ学生たちによく見えていたことである。対面授業では、発表者が教室の前に立ち、教員は学生たちより後ろの列に座って聞くことが多い。教員の様子は発表者には見えても、他の学生には見えない。しかし、発表者と教員のみがカメラをオンにしている状態では、学生たちは教員の様子にも自然と目がいき、上述のような関心の示し方を「聴く」態度のモデルとして学ぶことができる。日本語科目では、「書く・読む・話す・聞く」を関連させつつともに伸ばしていくことが目標だが、4 技能の中でどう学ばせるかが最も難しいのは「聞く」ではないかと考える。その意味では、これは一見小さなことかもしれないが、Zoom の授業だったからこそ成立した教育の機会なのではないかと思った。

遠隔授業でも講義形式の科目などはクラス内の一体感を作ることが難しいが、今回参観した授業では、90 分を通じてなごやかな雰囲気がよく感じられた。これは、文章課題や口頭発表に対する毎回のこまめなフィードバックを通じて、教員と学生の信頼関係が作り上げられている表れといえよう。

### ④担当者の意見

「日本語表現」は半年という期間を通じて①口頭表現の力と②2000 字のレポートを執筆する力という 2 つのスキルを身につける科目である。今回は活動として特に①の口頭表現を身につける場、学生によるビブリオバトルを見学していただいた。

発表者（受講生）には事前に（第 9 講）にて、口頭表現の際に気を付けるポイント、制限時間、聴講の際に行ってほしい事柄、書評の書き方などが書かれたプリントを配布すると共に、3 週間前から本を選書し、準備するよう依頼していた。当日緊張した様子も見られたが、授業後、受講生から「紹介された本を是非読んでみたいと思った」「もっと口頭表現の練習をしてスキルを磨きたいと思った」など意欲的な感想が寄せられ、その点では自主的な学びの契機とすることができたように思う。

反省すべき課題としては①学術文庫など学術的文献を選書するよう指導、候補リストも渡していたが、一般書を選んでしまった受講生が存した点、②活動を円滑に行うためにも、発表順はこちらから明示した方がスムーズであった点、③講師からのコメントに時間がかかり、後半の活動（要約課題のフィードバック）の時間が不足してしまった点の 3 点である。苦痛に感じるのではなく、発表そのものを楽しんでほしいという思いから、発表スタイルも本も受講生自ら選ぶ余地を残していたのだが、次回以降、伝え方、時間配分を工夫し、反省を活かした授業にしていきたい。

さらにオンライン上、工夫していきたい点としては、「ふりかえり」活動が挙げられる。遠隔授業は、受講生の表情が見えづらく、反応が捉えづらいという側面はあるが、「ふりかえり」には有効な側面もあるようである。例えば、今回のような口頭発表活動の場合、授業の録画を活用することで、授業後、自身のスピーチを映像で振り返ることができる。普段話しているのみでは得られない情報が映像で視覚化され、自身



の振り返りにつながることで、スキルアップの契機となるのではないだろうか。仲間の発表に対しコメントを記載する際にも再度見直すことができるというメリットがあるようで、参観後の授業にて、仲間のよい点を探しては、具体的に意見し合う様子も見られた。今後も活用していきたい。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さいました熊谷先生、お忙しいところご参加下さいました先生方に御礼申し上げます。

2020年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021年 1月 12日

科目・専攻・委員会名 情報処理教育運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 春名太一

|         |               |       |                    |
|---------|---------------|-------|--------------------|
| 授業科目    | コンピュータ・サイエンスⅡ | 授業担当者 | 白銀純子               |
| 授業形態    | Zoomによる遠隔授業   |       |                    |
| 授業参観実施日 | 12月11日(金) 5時限 | 参観者数  | 2名<br>(内、非常勤講師 0名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

情報処理教室で授業を受けたことのない初年次学生を主な受講者とする情報処理科目の遠隔授業の実施方法について、教員間で情報共有を行うため。

② 参観者の意見

本授業で特筆すべきは、オンライン授業でありながら、双方向および実践を多く取り入れられていた点である。授業内で何度も学生が講師の問いかけに回答する機会を設けたり、Google フォームを用いた授業内課題があったり、(Zoom 機能で) 挙手をして学生の理解を確認するなどである。また、実践としては、学生にその場で自分の PC のファイアウォール設定を確認させるなどである。1 回の授業の中でこれだけの工夫をすると煩雑になりがちであるが、「間」や休憩時間も設けられており、オンライン授業での学生の理解の負担にも十分に配慮されたものであった。本授業で扱われたテーマであるネットワークやセキュリティでは、次々と新しい概念や用語が登場し、初めて学ぶ学生は教科書を読むだけでは大局的な見取り図を作るのがなかなか難しい話題であると考えられる。本授業では、本質的な部分を簡潔にまとめ、さらに、イメージしづらい内容については、たとえば LINE 通信であったり、東女 Gmail、東京女子大学のドメインであったり身近な例をあげて、わかりやすく説明していた。最後に来週の授業につなげるため、来週までに準備しておくこと(アルゴリズムを学ぶための材料の準備)を連絡することで、学生に次回の内容を想像する楽しみも提供していた。

③ 主任・委員長等の意見

オンライン授業でありながら座学と実習のバランスが上手くとれた授業構成となっており、オンラインでの情報処理科目の教授法として大いに参考となった。特に、学生自身のネットワーク環境を利用した演習を取り入れるなど、オンラインであることのメリットを生かすことの重要性を認識させられた。

④ 担当者の意見

本授業は毎回、前回授業の授業内課題の解答の説明、前回授業で出された質問への回答、前回授業の復習を行い、その後、当日の授業内容に入る、という流れで行っている。授業内課題とは、授業内で 2~3 回ほど出す、復習問題や理解度確認の問題、演習の作業結果の報告などである。前回授業での質問は、授業内課題の提出フォームの記入欄に記入することになっている。授業参観当日の授業は、ネットワークやセキュリティに関する内容であった。今年度はオンライン授業となり、学生が自分の PC やスマートフォンを使っ

て授業に参加しているため、授業内で自分自身の PC の仕様や設定を確認する演習を取り入れている。授業参観日に行った、ファイアウォールの設定の確認はその一環である。このように自宅の PC の仕組みを知ることによって、授業内容を身近に感じることができているようである。実際、今回の授業後、自分の PC ではファイアウォールの設定がされておらず、セキュリティについて見直したい、という意見が寄せられていた。本授業に関しては、対面でなければできない演習などはできなくなり、その分をどのように補填するかは課題であるが、逆にオンラインでなければ行うことが難しい演習を行うことができ、オンラインのメリットを感じた授業でもあると考えている。

2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021 年 12 月 23 日

科目・専攻・委員会名

教職課程運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

大家まゆみ

|  |                     |           |                      |
|--|---------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目  | 英語科教育法ⅡA            | 授 業 担 当 者 | 鈴木栄                  |
| 授業形態   | Zoom による双方向型オンライン授業 |           |                      |
| 授業参観実施日  | 12月1日(火) 4時限        | 参 観 者 数   | 3 名<br>(内、非常勤講師 1 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① グローバル化した現代社会において、中等教育段階の英語教育は一層、重要性を増している。英語科教育法ⅡAは、国際社会に通用する生きた英語を教え、学び合うための実践的な内容で構成されている。授業者は日常的に、英語科の教職学生と共に様々な学校を訪問し、授業や休み時間の様子を見学し、管理職と交流している。実践的な学びを中心とする教職科目の教科教育法の中でも、教員が当該科目を相互に参観することにより、生きた英語をどのように教えればよいのかを学ぶことができるため、選定した。</p> <p>② まず、授業担当者がブルームの評価について説明した点については、教育評価の観点から改めて、教育の効果をどのように測定するかを振り返る機会となった。また、学生が複数名ずつグループになり、模擬授業を行った場面は、どのグループもとても積極的に明るい声が響いており、かつ中高生にも分かりやすいパワーポイントを作成していて、授業者のふだんの指導が行き届いていると実感できた。</p> <p>③ 授業参観では、「学習者の考えを深める英語の授業と評価」というテーマで授業の流れを説明し、その後、学生によるグループ発表を行った。評価は単に成績をつけることではなく、学習を深めることにも繋がること、学習者間の評価および自己評価も重要であることを確認した。学生は、評価についてよく考え、個々のグループでは興味深い題材を選び、taskを作成した。発表はどれも素晴らしいものであった。</p> <p>④ 授業では、英語教育における評価について考えを深め、実際に模擬授業を評価する、あるいは評価を念頭におき授業を組み立てる活動をおこなっている。まず評価とは何か、指導要領などに書かれている評価の観点を紹介した。次に、海外の視点として特にアメリカで広く使われている Bloom's Taxonomy (ブルームの評価規準)を紹介した。具体的な評価規準として英語の文献から Communicative Competence において要求される能力と Task における評価を紹介した。次に授業評価の案として、Authentic material (教科書ではない実際に使われている言語資料を教材とする場合)を使った模擬授業の例を task と評価の観点を入れ紹介した。こうした授業の流れの説明の後に、学生がグループで作成した模擬授業と評価についてのプレゼンテーションを発表し、その後、感想と教員からの質問およびコメントを伝えた。</p> |                     |           |                      |

2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2020 年 12 月 7 日

科目・専攻・委員会名 学芸員課程運営 委員会

主任・委員長等責任者氏名 委員長 高橋 修

|         |                      |           |                      |
|---------|----------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目 | 博物館実習 2              | 授 業 担 当 者 | 高橋 修                 |
| 授 業 形 態 | 遠隔授業による実習            |           |                      |
| 授業参観実施日 | 11 月 26 日 ( 木 ) 3 時限 | 参 観 者 数   | 4 名<br>(内、非常勤講師 3 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

### ① 授業科目の選定理由

- 博物館実習は学芸員資格取得にあたり、最終段階に位置づけられる重要な科目である。博物館学芸員になるための第一の資質として、実物資料の取り扱いに精通していることが挙げられる。そこで本学では実物資料を教材として用い、実践的に博物館資料の取り扱い方を修得し得る授業内容としている点に大きな特徴がある。
- 今年度は、コロナ問題により全学的に遠隔授業の導入を余儀なくされたが、本授業にあっては実物資料の取り扱いを重視していることから、対面形式の授業を原則とした。しかしながら、学生の家庭の事情や経済的理由等により、本学までの通学が物理的に困難な者も存在する。そこで、対面形式の授業を主としつつも、上記事情に配慮し、希望者には遠隔形式の授業を行っている。
- 遠隔形式による実習は初めての試みであり、コロナ問題が長引けば今後も同形式の授業を導入する必要がある。そこで、遠隔形式の実践方法について意見交換をし、その利点と改善点を検討することは、同形式の授業を実施するにあたり有益であると判断された。以上が選定理由である。

### ② 参観者の意見

#### 【当日の授業内容】

- 人文系博物館における主要資料である和服の取り扱いを授業テーマとした。
- 授業は Zoom により実施した。授業全体の構成は A 衣服の取り扱い方解説、B 衣服の取り扱い実習の 2 部に分かれ、A は 60 分、B は 30 分という時間配分とし、計 90 分となる。以上が全体の授業の流れである。
- ・A を実施するにあたり、事前に学生にワード・PDF 形式で作成した資料を授業前日に送付し、授業理解をしやすくようにした。
- ・衣服の取り扱いを解説した 10 分程度のオリジナル映像教材を作成し、その動画を流しながら、随時、口頭により解説を加えた。
- ・本学内での対面授業の雰囲気伝えるために、その実施状況あらかじめ動画で撮影し、その様子も授業内で流した。

- ・Bを実施するにあたり、事前に学生には実物の和服を郵送し、実際に資料に触れながら取り扱い方を習得できるようにした。
- ・Aの終了後も上記オリジナル映像教材を授業時間終了までエンドレスで流し続け、学生自身で自主的に復習できるよう配慮した。
- ・学生の理解を確認するために、課題提出を課した。課題内容は取り扱いの主要成果を写真撮影し、授業担当者にメール送付するという内容である。

#### 【参観者から出された意見】

- 遠隔授業による実習授業のノウハウについて、他の授業の実施事例を知るために参加した。
- 映像教材が効果的に活用されている。映像教材は繰り返し流すことが可能であり、理解の定着に有効であると考えていたが、本授業によりあらためてその点を再認識し得た。
- 単に映像を流すだけでなく、随時、停止させながら解説を加え、時には学生からの質問を受け付けていたため、学生の授業理解は深化したものと考えられる。
- 対面形式を受講している学生と遠隔形式を受講している学生とは本来、一つの教室で顔を合わせ、互いに交流し合う関係を結んでいた筈であった。それが今回のコロナ形式により叶わなくなってしまったが、少しでもその問題を解決するために、対面授業の様子を映像で記録し、それを遠隔授業で流すのは有益な工夫である。遠隔授業を受講している学生にとって、学内授業の雰囲気伝わったと思われる。
- 当初、動画を活用した授業はオンデマンドで配信することを主として想定していたが、オンライン型の授業でも効果的に活用し得ることを確認し得た。今後、動画の活用方法について深く検討してみたい。
- オンタイム方式の課題として、通信障害等により授業そのものが成立し得ないリスクを抱えている。また、受講者が多人数の場合、通信事情によっては映像教材がスムーズに流し得ない事態が発生することもあり得る。受講人数に制限を加える等の措置も視野に含める必要がある。

### ③・④担当者の意見（委員長・授業担当者が兼務）

- 実習形式の授業は本来、対面形式の方が有効であり、遠隔形式の授業では学生の理解が不十分となるのが当初、懸念された。
- 上記問題を解決するために、遠隔形式の実習を実施するにあたり、次の諸点を工夫した。
  - ・実物資料もしくはそれに準拠する代替教材を学生に事前郵送することで、博物館資料の取り扱い技術について習得できるようにした。
  - ・資料の取り扱い方を解説したオリジナル映像教材を作成し、それを複数回にわたって流すことで、学生の理解を容易にした。
  - ・映像を流す際、随時、解説を加え、また、Zoomのチャット機能やマイク機能を用いることで、学生からの質問・意見を促す場を設けた。そのことで学生の理解を深めるようにした。
- 毎時間、課題提出を課しているが、いずれも授業内容を十分に理解していることが窺われ、上記方策が一定の効果を挙げていることを確認し得た。参観者からも一定の効果があるという意見が出されたため、今後も上記工夫を継続的に組み込むこととしたい。
- ただし、遠隔形式の実習には次の問題・課題がある。
  - ・同じ授業科目で対面形式と遠隔形式の二つの授業を行っているため、教員の負担は2倍となっている。
  - ・映像教材の作成にあたり、企画・撮影・編集のための時間を必要とし、例年の授業準備時間と比較すると、およそ5倍近くの負担となっている。
  - ・実習教材として郵送できるものとそれが不可能なものがあるため、対面形式の授業内容を必ずしも十分に補い得るものとはなり得ていない。その一例として屏風の取り扱いが挙げられる。屏風の取り扱いには複数人を必要とするため、遠隔という授業形態と矛盾をきたす。遠隔形式を受講している学生は屏風を直接、取り扱う機会がなくなるという問題がある。

- ・遠隔希望者が多数となると、予算的に実施困難となる。教材郵送費・教材費を必要とするため、遠隔授業の導入にあたっては人数制限を設けざるを得ない。

## ⑤その他

- 遠隔授業はパソコンの不具合等により授業そのものが成立し得ないというリスクを抱えている。そのため学生・教職員共にメインパソコン・サブパソコンを標準的装備とすることが挙げられる。

2020 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 2 月 22 日

科目・専攻・委員会名 キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 篠目清美

|   |  |           |                                      |
|---|--|-----------|--------------------------------------|
| 授 業 科 目   | 総合教養科目<br>Total Presentation Workshop          | 授 業 担 当 者 | Rabbini, Roberto                     |
| 授 業 形 態   | ZOOM 使用によるオンラインで行われるコミュにカティブ・双方向的な言語習得のための演習授業 |           |                                      |
| 授業参観実施日   | 11 月 26 日 ( 木 ) 3 時限                           | 参 観 者 数   | _____ 2 _____ 名<br>(内、非常勤講師 _____ 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 授業科目の選定理由<br/>当科目はキャリア・イングリッシュ課程 4 年次生の必修科目で、集大成ともいべき英語にプレゼンテーション能力を養う科目であるため。</p> <p>② 参観者の意見<br/>・この科目は、4年次生のキャリア・イングリッシュ課程生を対象に、プレゼンテーションに必要なリサーチ、発表、討論スキルを向上させ、最終的に学生が自信をもって、示唆に富む内容の英語プレゼンテーションができることを目標にしている。そのため授業内活動では、テキストの題材をもとに、議論すべき話題や問題点について、ペア・グループワークで互いに意見し合い、考えを深めるための oral communication の機会が多く設定されていた。<br/>・教員は、第二言語習得論に基づく言語教育指導で必要とされる手法をうまく取り入れていた。たとえば 1) Teacher Talk について、オンラインの授業活動での指示が明確。また学生からの反応を確認しながら、適切なことばの運用を行っている。2) Feedback については、学生の言語活動から errors を拾い上げ説明 (focus on form) しながら accuracy に関する指導も適宜行っている。3) 授業運営に関しては、発話だけでなくチャット機能の活用を学生にも促すなど、総じて対面以上に学生と教員の距離を縮めた、双方向のアクティブな授業を実現していた。</p> <p>③今回は担当者と参加者との連絡が行き違い、当初予定していた先生方にご参加いただけなかったことが大変残念であった。授業は、ブレイクアウト・ルームの活用などにより、学生同士の英語によるコミュニケーションの機会が多く設けられ、担当教員もセッションに参加し、適切なアドバイスをを行うなど、遠隔授業でも、インターアクティブな授業が展開されていた。</p> <p>④担当授業ではあらかじめ予習してきたテキストのトピックについて、グループに分かれ、テキストで提示されている問題の解決策を話し合わせた。その際、テキストの語彙の確認なども含め、適切な英語表現の習得を目標とした。</p> |  |           |                                      |